

平成29年度 第2回 健康横浜21推進会議 議事録	
日 時	平成30年3月28日（水）19時～21時
開催場所	横浜市開港記念会館 9号会議室
出席者	健康横浜21推進会議委員 18名（資料1）
開催形態	公開（傍聴者0人）
議題	1 開会 2 委員紹介
議題	3 (1) 第2期健康横浜21中間評価報告書について ＜資料2＞ (2) よこはま健康アクションステージ2について ＜資料3＞ 事務局より資料2、資料3について説明
主な意見等	<p>（国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長） 今後を見据えてどのようなことが出来るかを、関係団体の方々と意見交換を行っていききたい。まずは生活習慣病対策の強化について、ご意見いかがか。</p> <p>（全国健康保険協会神奈川支部 内田委員） 中間評価にある「生活習慣病対策の強化」の、特定健診受診率向上対策、健康経営の推進、糖尿病等の重症化予防はこちらも横浜市と同じ取組をしている。特定健診に関しては、加入者の受診率が向上するよう取り組んでいる。がん検診については、加入者は対象だが、扶養者である家族は横浜市のがん検診になるので、協働してやっていきたい。健康経営については、かながわ健康企業宣言をやっている。こちらについては、横浜市の健康経営認証と重なって登録している企業が多いので、まさに協働してやっていきたい部分。糖尿病等の重症化予防については、横浜市の国保と同じスキームでやっている。共通している部分が多いので、協働してこれからやっていきたい。</p> <p>（国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長） 特定健診とがん検診との同時実施はどうか？プラスワンとして次の段階で出来るといいが。</p> <p>（全国健康保険協会神奈川支部 内田委員） まだ検討している段階。</p> <p>（健康保険組合連合会神奈川連合会 大宮委員） 特定健診受診率については、健保連としては高く、被保険者は87%位で、被扶養者が43%位。被保険者は会社で健診等をやっているのので9割近くにな</p>

っているが、被扶養者の受診率をいかに上げられるか。健康経営については、市と協定を結んで一緒に取り組んでいる。糖尿病の重症化予防は、人工透析の予防として力を入れてやっていきたい。

(神奈川県産業保健総合支援センター 渡辺委員)

職域の健康相談・保健指導をやっている。主に小規模事業所を対象に健診後の事後措置、長時間労働者の面談、メンタルヘルス、ストレスチェック等の支援を行っている。また、衛生管理者を対象とした健康教育やポスター配布等で知識の啓発、普及等を行っている。

(相鉄ローゼン(株) 前橋委員)

従業員の年齢が高くなるにつれて、病気の割合も多くなっている。健診にプラスしてオプション検査を受けたいという声が多く、自費でオプション検査を受けられる形でやっている。2,000人位受けたうち、20%程度は腫瘍マーカーやPSA検査等希望している。

(横浜市食品衛生協会 松谷副会長)

受動喫煙防止については、3月に企業の協力を受けて、食品衛生協会の会員各店へ分煙・禁煙ステッカーを配布した。協会の会員は区分けすることが出来た。屋外喫煙については、横浜市は駅単位で禁煙地区を設けているが、ワールドカップ、オリンピックに向けて、駅単位ではなく、横浜全域で屋外禁煙にしてはどうか。罰則があるのは屋内だけなので、屋外も罰則を取り入れなくては減らないと思っている。

(事務局)

他自治体で路上喫煙禁止にしているところもある。横浜市はポイ捨て・喫煙禁止条例で、主要な駅の周囲は罰則となっているが、市全域ではない。駅周辺、禁止区域の範囲から外れているところに対して、市民の方からのご意見が多い。行政だけでは難しく、地域全体で取組を考えていかねばならない。関係局と調整をしていきたいと思っている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

タバコについてはまた後ほど触れていきたい。特定健診の無料化とあるが、30年度から様々な制度変更があり、健診の受診率を上げないと保険者にペナルティも出てくる。力を入れねばならないところ。地域住民に寄与する部分とも考えられるが、受診率向上に関してどんな活動をしているか。

(横浜市保健活動推進委員会 田中委員)

従来から、行政と組んで様々な働きかけをやっている。保健活動推進員は、

町内会自治会から最低1名出ているので、これから町内会自治会への働きかけを強化していきたい。たとえば、町内会自治会別にランキング付けをしてみる等、面白いのでは。今後は町内会自治会のレベルで、細かくやっていきたい。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

横浜市の特定健診受診率はかなり低い。そういったことを町内会自治会、保健活動推進員に知られているか？

(横浜市保健活動推進委員会 田中委員)

受診率が低いことは何回も聞いている。日本で一番低いのでは。費用負担が当初の700円から1,200円になって、値段が高いという声は聞こえないが、費用がかかっているのも確か。東京都は以前から無料化していて、受診率40%になっているので、こちらにもプレッシャーがかかっている。無料化になったからといって東京都並にいくとも限らないので、今までと違うやり方も必要かと。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

全面に打ち出してPRが必要と思う。国保連合会はいかがか。

(神奈川県国民健康保険団体連合会 佐藤委員)

神奈川県下全体で受診率の向上に向けたお手伝いをさせていただいている。受診勧奨にとまなう在宅保健師の派遣もしている。先日マスコミから、神奈川県国保特定健診受診率が低いのはなぜかと問合せがあった。注目されてしまう程なので、一致団結して取り組んでいきたい。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

受診率が低い理由として、何かの病気にかかっている人は健診を受けないからなのでは。例えば高血圧等で定期的に病院に行っているのと。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

主治医の先生から健診を勧める一言が必要か。

(横浜市医師会 渡邊会長)

来年度から生活習慣病を持っている人も、健診を受けることが出来るようになるとのことだが。

(事務局)

昨年、国保中央会を通じて日本医師会へ、病気を持っていて治療中であっ

でも、自身の健康を考える機会として受診を勧めていただくようお願いがあった。市・区医師会へも健診委託しており、治療中の方もぜひお願いしたいと思っている。

(事務局)

今まで、75歳以上が受ける横浜市健康診査は、治療中の方は受けることが出来ないとなっていて混乱を招いた。来年度から、75歳以上で治療中の方でも受けることが出来るようになった。

(横浜市医師会 渡邊会長)

各区医師会にも周知して啓発している。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

市医師会から各区医師会、保健活動推進員から各自治会へとどんどん情報提供していき、両方から意識を盛り上げて受診率向上できるようになったらいい。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

糖尿病性腎症の患者の死亡率について、歯周病が重症化するほど多くなっていることが分かった。歯周病対策が必要で、医科歯科連携も始めている。先駆的に青葉区で動き始めており、医科で特定健診を受けていない人が多いので、受診啓発として歯科診療所で行うのはどうかと声あった。以前、内科学会と共同で進めた事業として、特定健診を受けていない方の糖尿病スクリーニングを歯科診療所でやると、7～10%程度引っかかって医科の先生につながたという調査もある。健診の中に口腔の項目も入っているので、今後も医師会や、他職種連携を進めていきたい。

(横浜市医師会 渡邊会長)

医科歯科連携については4月から全区展開する予定。各区の歯科医師会、医師会でお互いに話し合っ、講演会等で勉強をし合っ進めていく予定。青葉区をモデルにして進めていきたい。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

子どものほうはいかがか。基本的な生活習慣の獲得が必要とあるが。

(横浜市体育協会 伊藤委員)

子どもの体力低下が問題になっている。保育園や幼稚園、小学校を対象に、父兄の要請で、こちらの職員が保育士等へスポーツの楽しさを実感できるように指導している。少しずつ拡大しながら行っている。元は市の補助金でやっ

ていたが、今は自主事業。小学校の児童へは、学校の中休み等で一緒になってできる、かけっこやボール遊び等をして、体を動かす意識づくりをしている。

(横浜市食生活等改善推進員協議会 桜木委員)

各事業等で、出汁を作って親や子へ美味しさを知ってもらうこと等を行っている。食育の面でアプローチしている。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

食育は、栄養教諭が学校給食等指導しているので、栄養士会としては栄養教諭と一緒にやっている。また、歯科医師会と一緒に食育フォーラムを進めている。特定健診の保健指導について、食事指導はとても重要。県栄養士会では結果に基づいた指導を重要としている。

栄養ケアステーションについては、青葉区をモデルとして医師会と連携して進めている。開業医のところに栄養士を紹介し、クリニックで指導している。他の区でも広くできればと思っている。開業医のところになかなか栄養士がないので、希望があれば紹介している。

(横浜市医師会 渡邊会長)

開業医が受け入れてくれるところを探すのが必要。いいですよと言われるところは良いが、全ては難しいのでは。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

スペースや時間的な制限があるという所もあるので、手を挙げたところと進めている状況。

(J A横浜 小山委員)

学校、教育現場で、子どもの食育に関する授業をやってほしいと依頼があり、出前授業という形で取り組んでいる。人数に制限があるため全てには対応できないが、現場に野菜を持って行くと、普段家では野菜を食べないのに食べたという子もいる。現場で、直接食を通して子どもが父・母と触れ合うことが大事と思った。生産者を抱えている農協なので、新鮮な野菜を美味しく食べてもらうよう、今後も続けていきたい。

(横浜市PTA連絡協議会 七海委員)

小学校のほうでも食育活動が進んでいる。保育園でも、0歳児からの食育として国が推進していることもあり、進んでいる。小学校のほうでも給食委員会を作って、どこに行っても栄養価が書いてあるので、子ども達にとっても、親にとっても勉強になる。最近の傾向は給食だけでなく、小学校から睡

眠を害する携帯電話、中学校で喫煙・飲酒防止の授業がある。内容を子どもが持って帰り、保護者にも一緒に考えてもらう。そういうことで、親を巻き込むことは良いと思う。啓発については、子ども達から巻き込んでいくのもひとつかなど。また、今後、横浜市が教職員の働き方改革についての手紙を保護者向けに出す予定。PTAもバックアップする形で、子ども達とゆっくり関わっていけるよう応援していく。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

教職員の働き方改革が出ると、もう少し家庭でみましようというひとつの流れができる。

(横浜市PTA連絡協議会 七海委員)

家庭と地域で子どもをみましようというところ。夜、先生に電話がかかってくることもあるが、次の日にしたり、家庭でみたり、ということ。そうすると、親も早く帰る必要が出てくるので、良いサイクルになるといい。

((株)テレビ神奈川 遊馬委員)

モチベーションの問題だと思うが、医療機関の受診にしても、お金・時間がかかる。行く価値を伝えていくことが大事。関心のある人にはすでに届いているかもしれないので、そうでない人に対して、間接的にどう良いことがあるか?と番組で取り上げて啓発するとか。特にタレント、有名人の発言力は強いが、こればかりは難しい。こちらはある出来事を発信するのが役割なので、意識して取り組んでいきたいと思っている。子どもへは、〇〇しなさいよりも、変化球で伝えてモチベーションを上げることが大事。子どもが多く見ているある番組で、歯磨きメーカーがスポンサーに入っていたので、出演者が歯を磨くことを繰り返し伝える場面があった。毎週やると習慣化する。他にも、例えば、何時までに寝るとスタンプがもらえるとか、柔らかい変化球的なPRが大事かと。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

たばこへの対策についてはいかがか。

(禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議 中沢委員)

禁煙教育の専門家がいるので、地域や学校・企業に出向いて健康教育している。受動喫煙は減ってはきているが、さらに対策が必要。子どもに関しては、データ等みてみても、未成年と同居する者の喫煙率がなかなか減っていない。30~40代も問題だが、20代もある程度高い。団体へ持ち帰って、もっと若い層にアピールできるよう考えていきたい。また、行政のほうへは、母子保健との連携とりながら、受動喫煙も一種の虐待という意識で考えていた

だきたい。

当病院は循環器と呼吸器の専門だが、救急ではすでに進行している患者が多く、40代で心筋梗塞の方も運ばれてきている。若年化してきているが、高齢者も多く、健診等を受けて早期発見することが重要。そういったところでは、皆様の活動が様々行われていると思った。糖尿病に関しては、研究として血糖値を24時間モニタリング測定する装置も使っているが、おにぎり1個食べるだけでとても上がるのがわかる。見える化してみると、ゆっくり食べる、野菜を多くとらなくてはいけない等のつながりがよくわかるので、見える化を保健指導に取り入れるのも大事かと。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

今ちょうどモデル的に、15分ごとに血糖値がわかる装置を今付けている。自分でわかるので、とてもためになる。

(横浜市薬剤師会 高堂委員)

区でやっている事業について、薬局側が知らないということがアンケートの報告でわかった。区へつなげるという意識が低かったので、区でどんなことをやっているか、薬剤師にPRしていくとともに、区との連携について考えている。今年度は、教育委員会事務局と合同で、お酒の害、アルコール依存症、一気飲み等お酒の怖さを小学生から知ることができるスライドを作成した。体育の授業等で教育用として使える。次年度はタバコの害についても作っていきたい。子どもに教育すると効果がある。タバコは以前、テレビや映画でカッコいいというイメージがあったが、今は、吸っていても格好よくないという子が多くなった。

(横浜市医師会 渡邊会長)

加熱式タバコが問題になっている。お洒落に見えて、加熱式タバコに変える人も多いが、害があることをもっとPRしていかねばならない。以前、14大都市医師会連絡協議会での、テーマが受動喫煙だった。市によってはなかなか進まないところもあるようだったが、タバコは肺がんだけでなく、他にも体に良くないことがたくさんあることを全体でPRしていかないと難しいと思った。

(横浜市食品衛生協会 松谷副会長)

加熱式タバコは、出ている煙は水蒸気で、ニコチンだけ体内に入るので害が無いと聞いていた。家族がアイコスにしたので、洋服に臭いや色が移らなくなるだろうと思って、洋服カバーを外したが、黄色くなってしまった。本当にただの水蒸気だけなのか？と思ってしまった。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

ステージ1でウォーキングポイントが30万人達成したが、ロコモを防ぐためにも、より歩くこと、運動することは必要。ウォーキングを企業・自治体、より身近なところから進めていくことが大事と思うがいかがが。

(横浜市保健活動推進委員会 田中委員)

地域で健康チェック、血管年齢チェックをやっている。ウォーキングポイントをやっている人の中でも、腰や膝が痛くなって、歩きたいけど出来なくなってきたという人もいる。そういった人に血管年齢チェックをしたら、今までマイナス5歳位だったのが一気に悪くなっていて、歩くことが血管の柔軟度につながっていると思った。歩けなくても、体を動かせるような取組がこれから必要と思う。たとえば、椅子に座った状態でやってみるとか、血管年齢の上昇が防げた等、検証できたらやってみたい。これから高齢化が進んでくるので、歩けなくなった場合のことを切に感じている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

歩けなくても取り組めるような、そういうものを組み込めることも必要だと思う。企業側からはいかがが。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

直接的にウォーキングポイントはやっていないが、知識の普及の中でそういった話はしている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

多くの企業が参加してもらえるといいと思う。その他いかがが。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

食育フォーラムでは、母乳から離乳食までというテーマで、県栄養士会、保育園、行政にご協力いただいて実施した。食育は地産池消、食品の安全だけでなく、基本的なものから見直そうと。最近子どもロコモが問題になってきていて、口腔・食べる等の機能低下、顎の発達、睡眠障害、いびきにもつながる。将来大人になると睡眠時無呼吸症候群等、さらにハイリスクになる。子どものところでも、多職種で推進していけたらと思う。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

それぞれの立場から活動進めていることや、すでに連携が始まっているというご意見いただいた。特定健診がなぜ低いのか？皆で一言かけるとか、この辺りを向上していければと思う。大人の異常は子どもから始まっているという話もあり、家庭の中から見出していくことは、子の生活、親の生活の見

	直しにもつながる。今後も、それぞれの立場からの活動、連携を進めていければと感じた。
議題	3 (3) 健康横浜 2 1 推進会議今後の進め方 <資料 4 > 事務局より資料 4 について説明
主な意見等	(J A 横浜 小山委員) 連携というキーワード出てくるが、2 時間という短い中で会議しており、なかなかうまく出来なかった。同じような活動している方々と、具体的に話ができるといいと思っていた。ぜひ進めていただきたい。 (横浜市医師会 渡邊会長) では、その方向で考えていきたい。
その他	4 (1) 平成 29 年度横浜健康経営認証制度について <資料 5 > 事務局より資料 5 について説明 (2) よこはまウォーキングポイント事業について <資料 6 > 事務局より資料 6 について説明
閉会	5 局長あいさつ (事務局) 今期の委員任期は終了となるが、次期委員についてまた御相談させていただきたい。また、今後はより実務的な取組を検討するため、テーマ別の検討部会という形でもご協力いただきたい。